

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

職業実践専門課程の基本情報について

学校名 専門学校 東京テクニカルカレッジ		設置認可年月日 昭和62年3月27日		校長名 白井雅哲		所在地 〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3 (電話) 03-3360-8881																																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																			
学校法人小山学園		昭和49年10月17日		山本 匡		〒164-0001 東京都中野区中野6-21-16 (電話) 03-3360-8831																																			
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																																	
工業	工業専門課程		データサイエンス+AI科			令和6年文部科学省 告示		—																																	
学科の目的	以下ディプロマポリシーに掲げるような人材を輩出する。 『統計分析と機械学習の知識を利用してビジネスシーンにおける課題を理解し、必要なデータ・分析手法を提案することができる。 また、実施した分析結果をわかりやすく共有することで課題解決に貢献できる』																																								
認定年月日	令和7年 3月 24日																																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技																																	
2年	昼間	1905時間	375時間		300時間	1230時間	0時間	0時間																																	
生徒総定員	生徒実員		留学生数(生徒実員の)		専任教員数	兼任教員数		総教員数																																	
60人	33人		26人		2人	10人		12人																																	
学期制度	■ 1学期:4月1日から5月下旬の5週間 ■ 2学期:6月上旬から7月中旬の7週間 ■ 3学期:8月下旬から 10月中旬の7週間 ■ 4学期:10月下旬から12月中旬の7週間 ■ 5学期:1月中旬から3月31日の7週間				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期末に実施する履修判定試験の点数によって評価行う。科目によっては課題点等も考慮することがある。																																			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏 季:7月下旬から4週間 ■冬 季:12月下旬から3週間 ■春 季:3月中旬から3週間 ■学年末:3月31日				卒業・進級 条件	卒業にあつては履修時間表で定められた全ての履修科目の履修を、進級にあつては当該年度の全ての履修科目の履修を、条件とする。																																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学習目標未達成者・欠席者に対する補講の実施 長期欠席者への個別指導、保護者への連絡、家庭訪問等を実施				課外活動	■課外活動の種類 学内行事学生スタッフ、学内カフェスタッフ ■サークル活動: 有																																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和6年度卒業生) 情報通信業界(データサイエンティスト、データアナリスト、システムエンジニア、データベースエンジニア等) ■就職指導内容 1年各期末に全科合同で就職プログラムを実施 女子学生のための就職ガイダンスを実施 留学生のための就職ガイダンスを実施 各科にて、履歴書等の確認、模擬面接等を実施 ■卒業生数: 3 人 ■就職希望者数: 3 人 ■就職者数: 3 人 ■就職率: 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0 % ■その他 ・進学者数:0人 ・その他:0人 (令和 6 年度卒業生に関する				主な学修成果 (資格・検定 等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報) <table><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし				資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																						

	令和7年5月1日 時点の情報)		
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 令和6年4月1日時点において、在学者18名（令和6年4月1日入学者を含む） 令和7年3月31日時点において、在学者17名（令和7年3月31日卒業者をを含む） ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的事情、精神疾患 ■中退防止・中退者支援のための取組 中退防止を含む学生指導の窓口は、全てクラス担任が担っている。その上で、経済的困窮に関しては学務室が奨学金等の斡旋を行うなどの対応を行い、心身の不調や家庭の事情に関しては、その内容に応じて科長や事務長、副校長が個別相談を実施している。いずれの対応も、「学生指導記録データベース」によって情報を共有し、迅速で適切な対応を心掛けている。	■中退率 5.6 %	
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 特待生制度、後援会企業奨学金制度 ■専門実践教育給付： 未		
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）		
当該学科の ホームページ URL	https://tec.ttc.ac.jp/departments/game-programming		

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本科における教育課程の編成においては、ゲームプログラミングの実務者として必要とされる基礎的素養を身に付けさせることはもちろん、業界動向ならびに新技術の動向等もふまえて必要とされる知識・スキルを修得させることを目標としている。このことを実現させるために、また、形骸化しがちな資格偏重教育に陥らないための教授法や教材開発のために、本科では、業界諸団体等の意見を積極的に活かし、職業実践的かつ専門的能力育成に必要な内容を科目に落とし込むために、外部の関係者との間に密接な情報交換の場である「教育課程編成委員会」を設け、カリキュラム編成の参考にする体制を組織的に構築している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

本科では、上記(1)で掲げた基本方針を実現させるために、かねてより卒業生が在籍する企業等との間に「情報系高度教育研究会」を設け、カリキュラムやシラバスの立案や教材開発、学生の成績評価にご協力を頂いてきた。この委員会は、本科の人材目標とカリキュラムの整合性の確認や、輩出した卒業生の業界での活動実態を把握することも目的の一つとしてきたが、今般、この「専門部会」を、職業実践専門課程の申請にあたって「情報・Web・ゲーム系教育課程編成委員会」と命名変更し、あらたに教育活動基盤形成のための組織として位置付けることとした。

当委員会の使命は、これまで同様、カリキュラムやシラバスの立案や教材開発、学生の成績評価であるが、今後はより企業との連携を前面に打ち出し、実習・演習科目において更なる充実を図ることとしている。なお、本委員会は、組織上は副校長の直下に組織され、校長を委員長として業界団体や有識者、企業関係者などの外部委員の他、企画部部長、科長を内部委員として本科の教務関係の検討を行い、理事会への諮問をもってカリキュラムの変更等の承認を得る重要組織として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
後藤 英明	株式会社ネクストワン	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
開原 裕一	株式会社ネクストワン	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
経塚 真裕	ソフトビューベリオン株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
片山 善久	株式会社エフ・エム	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
阪上 誠	株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
田中 正吾	ワンフットシーバス	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
高堂 博司	ウイングレット・システム株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
岡山 義光	株式会社産業連携機構九州 / My-IoTコンソーシアム	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	①
ポール・リー	株式会社Terakoya.ai	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
北川 淳一郎	ヤフー株式会社 データサイエンティスト協会スキル定義委員	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	①
坂本 一憲	WillBooster株式会社 早稲田大学研究院客員准教授	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	②
佐藤 周平	株式会社セラク	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
澤坂 智之	株式会社Artisan	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
高橋 善之	株式会社ETS	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
中山 典隆	東京商工会議所 中野支部 有限会社 イブシロン	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	①

杉山 司	特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会/桔梗ICTパートナーズ株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	①
叶 修吾	株式会社博報堂プロダクツ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	③
白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレッジ 校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
井坂 昭司	専門学校東京テクニカルカレッジ 副校長/情報処理科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
多賀 大真	専門学校東京テクニカルカレッジ 学務室長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
呉石 義明	専門学校東京テクニカルカレッジ 情報処理科	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
藤原 瑞卿	専門学校東京テクニカルカレッジ IoT+AI科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
金井 伸也	専門学校東京テクニカルカレッジ データサイエンス+AI科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
川辺伸司	専門学校東京テクニカルカレッジ Web動画クリエイター科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	
松沢 一徳	専門学校東京テクニカルカレッジ ゲームプログラミング科科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年次委員会を4月～8月期に一度、11月～3月期に一度の2回開催する。また、年度末に卒業研究・卒業制作を中心とした学習成果発表会に参加いただき、カリキュラムおよび学習目標の達成度を確認・評価いただく。なお、必要と認められる場合は臨時委員会を開催する。
なお令和7年度実施日時(実施予定日時)は以下とする。

(開催日時)

第1回 令和7年 7月18日 15:00～17:00

第2回 令和7年12月 4日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

令和6年度に行われた2回の教育課程編成委員会にて、それぞれ以下の意見が委員より提出された。

- ・外国人留学生に向けた全学的なサポートが必要である点。
- ・課題探求型授業において与えるテーマを具体的にすべきである点。

以上の意見を受けて、下記の対応を行った。

- ・学校全体の留学生に向けた日本語の養成講座を設置した。
- ・課題探求型授業においてデータ分析やビジネスアイデアコンテストなど、目標が具体的となるようなテーマを設定した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校では、教育活動の形骸化を防止するためには、まずは上記の教育課程編成委員会等において現在のカリキュラムや授業内容等をチェックして頂く事が必要であると考えているが、併せてその実施にあたっては企業からの協力が欠かせないと考えている。

具体的には、カリキュラムの中に企業連携科目を組み込み、その科目の前後の科目とも有機的に連携させ、入学から卒業に至る一連のプロセスの成果として表れるようにすべきと考えている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

プログラマーに求められる基礎的素養を身に付けさせることはもちろん、業界動向ならびに新技術の動向等も踏まえて必要とされる知識・スキルを修得させることを目標としている。

特に開発実習課題においては、できるだけ実務に近い条件となるように連携企業に条件をチェックしてもらい、助言をもらっている。また、課題成果においても定期的なチェックにより、段階的にチェックレベルを高目、実務レベルを意識したコメントをもらっている。学習成果を示すプレゼンテーションにも参加してもらいコメント・アドバイスを貰い、成果品の質の向上を計っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要		連携企業等
リアルジョブプロジェクト2(RJP2)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	株式会社ブルーズ・アンド・カンパニー
リアルジョブプロジェクト3(RJP3)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	株式会社ブルーズ・アンド・カンパニー
リアルジョブプロジェクト4(RJP4)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います、企業の取り組みについて、	株式会社ブルーズ・アンド・カンパニー
ビジネス基礎	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	各種の機能とその役割を理解します。また、ビジネス上の課題解決のためのフレームワークを用いて課題の定式化を行える	合同会社日野コンサルタント

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本校では、専門学校の教員には実務、学術、教授力の3つの要素が欠かせないと考えており、そのそれぞれの専門性を向上させるためには、現状の能力等を適切に評価し、改善点を明確にした上で、適宜研修等による育成策を実施しなければならないと考えている。

以上の様な考え方にに基づき、本校では各教職員の適性や要スキルアップ項目等を見極めた上で、「小山学園研修規定」ならびに「東京テクニカルカレッジ教職員研修方針」、「同 教員研究方針」に基づき、研修・研究計画の立案や実施を行っている。具体的な内容としては、主に企業や団体に依頼する形で実施される「専門性向上研修」や「教授法研修」、学内での集合研修が中心となる「教育界認識研修」などがあげられる。これらの研修は、年度計画に基づいた校長指示により実施されるが、教職員自らが自己研鑽に務

めることを目的として自ら研修・研究の実施を希望する場合においても、校長判断によりこれを認めることがある。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	データサイエンティスト協会シンポジウム	連携企業等：	一般社団法人データサイエンティスト協会
期間：	2024年11月11日	対象：	常勤教員
内容	データサイエンスに関する最新トレンドの発表の聴講		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	やる気を引き出す魔法の言葉がけ ～PEPTALK～	連携企業等：	日本ベップトーク普及協会
期間：	2024年7月26日	対象：	常勤教員
内容	学生とのポジティブなコミュニケーションを実施するための実践研修		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	第12回教育活動報告会	連携企業等：	コンソーシアムTokyo
期間：	2024年9月19日	対象：	常勤教員
内容	当校当科の教育内容・教授法の充実に向け、加盟専門学校各校の教育活動を知る		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	第24回情報科学技術フォーラム	連携企業等：	FIT2025運営事務局
期間：	2025年9月3日～9月5日	対象：	常勤教員
内容	情報技術に関する最新の研究結果の発表の聴講		
研修名：	データサイエンティスト協会シンポジウム	連携企業等：	一般社団法人データサイエンティスト協会
期間：	2025年11月	対象：	常勤教員
内容	データサイエンスに関する最新トレンドの発表の聴講		
研修名：	未来会議202	連携企業等：	エム・ティ・プランニング株式会社
期間：	2025年8月	対象：	常勤教員
内容	当校当科の教育内容・教授法に役立つ最新のIT、ものづくり（ゲーム・Web）、空間設計、マーケティングや広報デザインを知る		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	「第13回教育活動報告会」	連携企業等：	コンソーシアムTokyo
期間：	2025年9月18日	対象：	常勤教員

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校では、職業教育を旨とする高等教育機関として、各業界において必要とされる人材の育成を関係業界等のニーズを踏まえ目標化する。教育成果を評価しているかについて適切な説明責任を果たすために、どの様な理念のもとで教育活動を行なっているのか、また業界との相互の課題やニーズ等の共有化に向けて、教育活動のみならず学校運営の状況を公表する。そして、関係する企業、職能団体等、卒業生、在校生保護者、地域の方や自治体関連部署等の評価を受け、その結果に教育活動、学校運営の改善を図ることにより高等教育機関としての責任を果たすことを目的に学校関係者評価を行うことを基本方針とする。なお、評価者は、企業役員、関連団体代表者等に依頼し、公平かつ、職業に必要と

針とする。なお、評価者として企業役員、関連諸団体の役職者等に積極的に参画いただき、職業に必要な知識・技能・態度に係わる質保証の視点を踏まえた評価の精度を上げることも方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準1 教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準2 学校運営
(3)教育活動	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準3 教育活動
(4)学修成果	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準4 学修成果
(5)学生支援	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準5 学生支援
(6)教育環境	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準7 学生の募集と受入れ
(8)財務	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準8 財務
(9)法令等の遵守	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準9 法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	『自己評価報告書』Ⅲ-1-基準10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

本校では、「専修学校における学校評価ガイドライン(専門学校等評価機構)」に準拠する形で「自己評価報告」を行っており、これを元に学校関係者評価委員会を開催している。委員会において指摘された箇所については、校として必要な取り組みは校長、学科として必要な取り組みは科長を責任者として、指摘事項の改善を図ることとしている。

例えば、2000年以来専門知識・技術の習得のために90分間毎の授業評価を実施するなど履修改革に取り組んできたが、その一方自ら問題を発見し解決する能力などの開発も重要であるとの指摘を受けてきた。そうした指摘をふまえて、PBLの手法を取り込んだ問題解決型授業「リアルジョブプロジェクト(以下RJP)」の創設・実施に取り組んできた。RJPに関しては、半期に一度の委員会において進捗状況を報告するとともに、年度末に成果報告を高覧いただき、その都度意見をいただき改善に努めてきた。その成果として、学科横断・企業連携による学内カフェ開設を達成し、学生の問題解決能力等の向上を図ることができた。また、RJPを正規科目として登録する際には、PBLにおいてそのプロセスを公正に評価する方法が必要との指摘を受けて、授業毎・期毎・年度毎の3種類のルーブリック評価票を開発し、学習の成果ならびに学生の成長を見える化することに取り組んできた。

また卒業生委員からは、卒業生と学校、卒業生同士のつながりが弱いとの指摘を受けた。それをふまえて、平成28年度から卒業後1年・5年・9年経った卒業生を対象に「卒業生調査」を実施、学習成果を確認するとともに学内改善の基礎資料とすることとした。また同時に同窓会の活性化に向けてあらためて取り組みを開始した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
常井 順司	株式会社Mizuiro	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	卒業生
澤坂 智之	株式会社Artisan	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	卒業生
藤沼 俊則	フォーネスライフ株式会社 NECソリューションイノベータ株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	卒業生
楡井 真実	建築監督科 保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	保護者
阿井 恵美	ゲームプログラミング科 保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	保護者
中山 典隆	有限会社 イプシロン 東京商工会議所 中野支部	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
杉山 司	桔梗ICTパートナーズ株式会社/特定非営利活動法人 中野コンテンツネットワーク協会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
佐々 義子	特定非営利活動法人 くらしとバイオプラザ21	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
島田 祐輔	エーピージーエム デザインアトリエ 法政大学大学院デザイン工学研究科	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等

杉岡 充敏	株式会社グッドニュース	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
松本 晴輝	株式会社進研アド	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
三浦 勝寛	株式会社リクルート	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
吉田 典子	株式会社ビーアライブ	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	企業等
岸 哲也	東中野五丁目小滝町会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(任期2年)	地域

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法：(ホームページ)・広報誌等の刊行物・(その他)自己評価報告書

公表時期：毎年7月31日を原則とする。

<https://tec.ttc.ac.jp/school/disclosure/kihonjoho>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、実践的な職業教育を行う教育機関として、関係業界等のニーズを踏まえ、どのような理念・目的・目指す人材像等を掲げて取り組んでいるか適切な説明を行う必要があるという認識のもと、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づいた評価項目をもって、学校関係者に情報公開を積極的に行い、学内外に対して普遍的判断のつく教育活動の透明性の証明の為に情報を公表する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	テクニカルHP＞学校案内＞教育理念 学園HP＞学園概要
(2)各学科等の教育	テクニカルHP＞学科紹介
(3)教職員	テクニカルHP＞公開情報
(4)キャリア教育・実践的職業教育	テクニカルHP＞就職・資格＞就職サポート体制
(5)様々な教育活動・教育環境	テクニカルHP＞当校が選ばれる理由 学園HP＞教育への取組み
(6)学生の生活支援	学園HP＞入学案内・奨学金＞奨学金/融資制度 テクニカルHP＞キャンパスライフ テクニカルHP＞入学案内＞学生寮のご案内
(7)学生納付金・修学支援	学園HP＞入学案内・奨学金 テクニカルHP＞入学案内＞学費・学費サポート
(8)学校の財務	テクニカルHP＞公開情報
(9)学校評価	テクニカルHP＞公開情報
(10)国際連携の状況	学園HP＞学園概要＞海外姉妹校・協力校 テクニカルHP＞キャンパスライフ＞海外短期留学研修SISP テクニカルHP＞キャンパスライフ＞建築・インテリア海外研修
(11)その他	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

<https://tec.ttc.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 データサイエンス+AI科)															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任
1	○			情報リテラシー	学習内容：学内ネットワークを利用できるように設定し、コミュニケーションツールとして活用できるようにします。またわが身を守るために必要なセキュリティの知識、著作権の知識、SNSへの投稿やメールを打つときの社会的な常識についても学習し	1 ①	15	1	○			○		○	
2	○			インターネットリテラシー	学習内容：今や一般業務のツールとして欠かせないインターネットについて、インターネットの仕組み、サービス、安全に使うための方法について学習します。	1 ①	15	1	○			○		○	
3	○			PCリテラシー1	学習内容：データ分析を行うための分析環境をPCに構築し、分析ツールとしてのJupyter Notebookの操作方法を理解します。	1 ①	15	1	○			○		○	
4	○			PCリテラシー2	学習内容：パソコン操作としてよく使われるWord、Excel（メインは他の科目で実施）、PowerPointの使い方、その他ビジネス業務においてよく使われるアプリケーションの使用方法を学びます。	1 ②	15	1	○			○		○	
5	○			コンピュータシステム1	学習内容：コンピュータの内部構造及び構成要素、コンピュータの性能を表す指標である速度、容量、扱うデータの種類を理解していきます。	1 ②	15	1	○			○			○
6	○			コンピュータシステム2	学習内容：データサイエンスで使うデータの種類とコンピュータの関係、周辺機器、仕事をしていく上で必要なコンピュータ環境の管理について学習していきます。	1 ②	15	1	○			○			○
7	○			Excelによる集計と可視化	学習内容：Excelの基本機能（データ入力、並べ替え、フィルタ）を理解し、関数やピボットテーブルによる集計、グラフによるデータの可視化方法を学びます。	1 ④	30	2	○			○		○	
8	○			Python入門	学習内容：Pythonの開発環境を構築し、基本文法について学習します。	1 ①	30	2	○			○		○	
9	○			アルゴリズム	学習内容：順次、選択、繰り返しの3つの基本処理とその応用となる問題を解決するためのいくつかのパターンを理解します。その上で複雑なアルゴリズムを作成できるようにします。	1 ①	30	2	○			○			○

10	○		データベース入門	学習内容：データベースとは何か、RDBMSとは何かを理解した上で、Oracleデータベースをインストールし、データを取り出すためのSELECT文の基本であるSELECT句、WHERE句、ORDER BY句の使い方を学習します。	1 ②	30	2	○			○		○
11	○		クラウド・コンピューティング入門	学習内容：クラウドコンピューティングとは何か？どのような種類があるか？どのような利点・欠点があるのか？どうやって使うのか？等、実際に運用上クラウドシステムが活用できるようにその知識を学習していきます。	1 ②	15	1	○			○		○
12	○		プロジェクトマネジメント概論	学習内容：PINBOKをはじめとして、プロジェクトを管理していく考え方、手法を理解していきます。品質管理においては、QCの7つ道具の役割を理解していきます。	1 ④	15	1	○			○		○
13	○		ビジネス基礎	学習内容：企業の行う活動について、各種の機能とその役割を理解します。また、ビジネス上の課題解決のためのフレームワークを用いて、課題の定式化を行えるようになることを目指します。	1 ④	15	1	○			○		○
14	○		ストラテジ	学習内容：企業の活動、経営組織を理解した上で、マーケティングの手法、システム戦略の手法、技術開発に関する戦略を意識した手法などを理解していきます。	1 ①	15	1	○			○		○
15	○		機械学習入門	学習内容：機械学習の特徴や利用されるシーンを知り、その効果や注意点を理解します。また、機械学習の様々な手法を概観することで、課題に合わせた手法の選択ができるようになることを目指します。	1 ③	15	1	○			○		○
16	○		Python技術	学習内容：PythonによるWebスクレイピングでWebページからデータを取得し、CSV形式で保存してデータを活用する方法について学習します。	1 ①	15	1	○			○		○
17	○		IT技術	学習内容：Pythonを使ったデータ分析を行う上で有用となる、基本的なIT技術や最新の技術トレンドを網羅的に身につけます。	2 ③	15	1	○			○		○
18	○		クラウド・コンピューティング応用	学習内容：クラウドサービスとしてのAI関連のAPI（画像、音声、文章など）を利用し、その機能の活用方法を身に付けます。また、APIを組み合わせた簡易的なwebサービスを開発します。	2 ②	15	1	○			○		○
19	○		プレゼンテーション技術	学習内容：WordとPowerPointの基本操作を理解し、文書とスライドによる表現方法の基礎を身に付けます。	2 ①	15	1	○			○		○
20	○		分析計画概論	学習内容：分析計画の各種項目（課題と目標、データ取得方法、分析方針、評価方法、運用形態）の決め方を、流れに沿ってフレームワークとして身に付けます。	2 ④	15	1	○			○		○
21	○		データ分析の倫理と法	学習内容：データ分析にまつわるセキュリティやプライバシー、知的財産権の扱いなどの注意事項や、分析品質などの保障についての留意点を学びます。	2 ③	15	1	○			○		○
22	○		Python基礎統計1	学習内容：各種の記述統計量について、その計算方法と解釈を、Pythonを利用して理解します。また、統計量の利用についての注意点や、その解釈の仕方を学びます。	1 ②	30	1			○	○		○

23	○		Python基礎統計2	学習内容：母集団と標本の概念やサンプリング手法、バイアスについて理解し、各種統計量の推定方法とその解釈を、Pythonを利用して身に付けます。	1 ②	30	1			○	○		○	
24	○		Python基礎統計3	学習内容：統計的仮説検定の枠組みを理解し、その利用方法と解釈を、Pythonを利用して身に付けます。また、p値を利用する上での注意点も理解します。	1 ④	30	1			○	○		○	
25	○		Python基礎統計4	学習内容：分散分析と相関分析の手順とその解釈を、Pythonを利用して身に付けます。	2 ②	30	1			○	○			○
26	○		Python基礎統計5	学習内容：分散分析と相関分析の手順とその解釈を、Pythonを利用して身に付けます。	2 ③	30	1			○	○		○	
27	○		Python基礎統計6	学習内容：カテゴリデータの分析の実行方法やその解釈を、Pythonを利用して身に付けます。	2 ④	30	1			○	○		○	
28	○		データベース実習1	学習内容：SELECT文の中でも重要度の高いグループ関数、GROUP BY、HAVINGおよび結合、副問い合わせ、集合演算を学習します。また、データ操作言語(DML)とトランザクションについて学習します。	1 ③	30	1			○	○		○	
29	○		データベース実習2	学習内容：テーブル作成、制約、その他のオブジェクトの作成などの重要なDDL処理について学習します。また、データベース設計の基本技術であるER図および正規化について学習します。	1 ④	30	1			○	○			○
30	○		データベース実習3	学習内容：オープンソースであるMySQLを使用して、テーブル作成、データの登録および管理、トランザクションの構成、SELECT文の復習などを行います。	1 ⑤	30	1			○	○			○
31	○		前処理技術1	学習内容：pandasを利用した表形式データの抽出や集計、結合の方法を身に付けます。また、高速なデータ処理を行うための留意点を理解します。	1 ②	30	1			○	○		○	
32	○		前処理技術2	学習内容：分析用データを作成するためのサンプリングや欠損値・外れ値の処理、特徴量の作成の方法を身に付けます。	1 ③	30	1			○	○		○	
33	○		可視化の技術1	学習内容：matplotlibを用いた基本的なデータ可視化の表現を身に付けます。また、データを正しく可視化をする上での留意事項を理解します。	1 ③	30	1			○	○		○	
34	○		可視化の技術2	学習内容：matplotlibやseabornを用いた応用的なデータ可視化の表現を身に付けます。また、効果的な可視化のためのテクニックを理解します。	1 ⑤	30	1			○	○		○	
35	○		可視化の技術3	学習内容：TableauなどのBIツールを用いたインタラクティブなデータ可視化の方法を身に付けます。	2 ①	30	1			○	○		○	

36	○		応用統計1	学習内容：回帰分析の実行方法やその解釈を、Pythonを利用して身に付けます。	1 ③	30	1			○	○			○
37	○		応用統計2	学習内容：重回帰分析の手法と解釈方法を身に付けます。また、重回帰分析を用いた因果推論の方法を身に付けます。	1 ④	30	1			○	○			○
38	○		応用統計3	学習内容：仮説をもとにしたモデルの構築やパス図の作成などの共分散構造分析の手法を身に付けます。	2 ④	30	1			○	○			○
39	○		応用統計4	学習内容：調査データを用いたクラスター分析や因子分析の方法と解釈を身に付けます。	2 ⑤	30	1			○	○			○
40	○		データ収集の手法	学習内容：分析を目的としたデータベースの設計手法や様々なデータ源からのデータ収集手段の設計手法を学びます。	2 ①	30	1			○	○		○	
41	○		統計数理	学習内容：確率と分布、母集団と標本や自由度、不偏推定量、p値や信頼区間などの統計における概念について、理論的な背景を理解します。	1 ⑤	30	1			○	○		○	
42	○		機械学習の数理	学習内容：機械学習で利用する微分や行列、情報理論に関する理論を、計算方法よりも定性的な理解に重きを置いて体系的に学びます。	2 ②	30	1			○	○		○	
43	○		機械学習実践1	学習内容：教師なし学習の基礎的な枠組みやその方法を、いくつかのクラスタリング手法によって身に付けます。また、それぞれの手法の違いを理解します。	1 ③	30	1			○	○			○
44	○		機械学習実践2	学習内容：主成分分析によるデータの圧縮や解釈の方法を身に付けます。	1 ⑤	30	1			○	○			○
45	○		機械学習実践3	学習内容：教師あり学習の基礎的な枠組みやその分析や評価・改良の方法を、ロジスティック回帰モデルを例にして身に付けます。	2 ②	30	1			○	○		○	
46	○		機械学習実践4	学習内容：サポートベクターマシンや、ランダムフォレストや勾配ブースティング決定木などの高度な機械学習モデルについて、定性的な理解と実用上の留意点を学びます。	2 ③	30	1			○	○		○	
47	○		機械学習実践5	学習内容：ニューラルネットワークの基礎的な理解と実用上の留意点を学びます。また、最新の深層畳み込みニューラルネットワークによる画像分析モデルについて、その特徴や利用方法を身に付けます。	2 ④	30	1			○	○			○
48	○		機械学習実践6	学習内容：最新の深層再帰的ニューラルネットワークによるテキスト分析モデルについて、その特徴や利用方法を身に付けます。また、最新の機械学習モデルのトレン	2 ⑤	30	1			○	○			○
49	○		画像処理技術	学習内容：画像データを扱う上で必要となる特有の処理方法や特徴量の作成方法などを、OpenCVというライブラリを用いて身に付けます。	2 ③	30	1			○	○			○

50	○		自然言語処理	学習内容：テキストデータを扱う上で必要となる特有の処理方法や可視化の方法などを、mecabというライブラリを用いて身に付けます。	1 ④	30	1			○	○			○
51	○		時系列データ分析	学習内容：時系列データを扱う上で必要となる特有の処理方法や特徴量の作成方法など身に付けます。	1 ⑤	30	1			○	○			○
52	○		音声情報処理	学習内容：音声データを扱う上で必要となる特有の処理方法や特徴量の作成方法などを身に付けます。	1 ⑤	30	1			○	○			○
53	○		Pythonプログラミング技術 1	学習内容：PythonのWebフレームワークの一つであるDjangoを使い、データを可視化するためのWebアプリケーションをつくる方法について学習します。	2 ①	30	1			○	○			○
54	○		Pythonプログラミング技術 2	学習内容：Pythonのオブジェクト指向な機能に焦点を当て、クラスや継承の機能についての学習を行います。	2 ②	30	1			○	○			○
55	○		特徴量エンジニアリング	学習内容：様々な特徴量についてその作成方法や分析上の意味・効果を理解します。また、特徴量の取捨選択の方法についても学びます。	2 ④	30	1			○	○			○
56	○		データビジュ アライゼー ション	学習内容：BIツールを用いたモダンなデータビジュアライゼーションの表現方法を知り、その技術的な実現方法を身に付けます。また、獲得した技術を用いてプレゼンテーションを行います。	2 ⑤	30	1			○	○			○
57	○		データベース 技術	学習内容：大規模データを扱うための効率的なデータベース設計方法や抽出方法を身に付けます。また、Hadoopなどの分散処理技術の概要を理解します。	2 ⑤	30	1			○	○			○
58	○		分析ロジック 実習	学習内容：様々な形式の分析課題の実習を通じて、分析計画の立案と実行方法を身に付けます。	2 ②	30	1			○	○			○
59	○		データプレゼ ンテーション	学習内容：データ分析の結果をプレゼンテーションするための構成や表現方法を理解します。また、実際にプレゼンテーションを実践することで、様々な表現方法を身	2 ③	30	1			○	○			○
60	○		課題解決実習 1	学習内容：卒業課題として実務で行うような分析による課題解決を通じて、課題の定式化と適用する分析方法の選択のための手がかりを身に付けます。	2 ④	30	1			○	○			○
61	○		課題解決実習 2	学習内容：ビジネスの様々な業種で起こる分析課題の一般的な型の実習を通じて、課題の定式化と適用する分析方法の選択のための手がかりを身に付けます。	2 ⑤	60	2			○	○			○

62	○			リアルジョブプロジェクト 1 (RJP1)	学習内容：2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組みます。	1 ②	30	1		○		○		○
63	○			リアルジョブプロジェクト 2 (RJP2)	学習内容：3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	1 ③	30	1		○		○		○
64	○			リアルジョブプロジェクト 3 (RJP3)	学習内容：4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	1 ④	30	1		○		○		○
65	○			リアルジョブプロジェクト 4 (RJP4)	学習内容：5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います。	1 ⑤	30	1		○		○		○
66	○			リアルジョブプロジェクト 5 (RJP5)	学習内容：2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組みます。	2 ②	30	1		○		○		○
67	○			リアルジョブプロジェクト 6 (RJP6)	学習内容：3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	2 ③	30	1		○		○		○
68	○			リアルジョブプロジェクト 7 (RJP7)	学習内容：4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきま	2 ④	30	1		○		○		○
69	○			リアルジョブプロジェクト 8 (RJP8)	学習内容：5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行いま	2 ⑤	30	1		○		○		○
70	○			校外学習1 (分析コンペティション参加)	学習内容：データ分析コンペティションのkaggleに参加する事で、データサイエンティストの世界を体感し、自らのスキルレベルを把握します。	1 ③	30	1		○			○	○
71			○	国内環境研修 2	この科目では、世界自然遺産である小笠原諸島にて環境学習やエコツアーリズムの一環として、現地の自然を満喫しながら、環境保全活動の実際を体験します。	2 ⑤	60	2			○		○	○
合計				71（必修のみ）／79（自由選択込）			科目		1905（必修のみ）／2445（自由選択込）					